上田市文化財調査報告書５５集

# 市　内　遺　跡　Ⅳ

平成６年度市内遺跡発掘調査報告書

１９９５．３

上田市教育委員会

上田市文化財調査報告書５５集

# 市　内　遺　跡　Ⅳ

平成６年度市内遺跡発掘調査報告書

１９９５．３

上田市教育委員会

# 例　　言

1　本書は、長野県上田市における各種開発事業に伴う、平成６年度市内遺跡発掘調査報告書である。

2　調査は、上田市の直営事業として実施した。なお、事務局は上田市教育委員会事務局社会教育課が担当した。

3　調査は、１９９４年４月１日から１９９５年３月２４日まで実施した。

4　本調査に係る資料は、上田市立信濃国分寺資料館に保管してある。

5　本書の編集・発行は事務局が行った。

6　本調査に係る組織は下記のとおりである。

調 査 指 導　五十嵐幹雄（日本考古学協会員・上田市文化財保護審議会委員）
〃　岩佐今朝人（日本考古学協会員・上田・小県誌考古編編纂副主任）
〃　塩 入 秀 敏（日本考古学協会員・上田女子短期大学教授）
〃　川　上　元（日本考古学協会員・上田市立博物館長）
〃　猪 熊 啓 司（長野県立長野高等学校教諭・上小考古学会員）
〃　倉 沢 正 幸（日本考古学協会員・上田市立信濃国分寺資料館主査）
社会教育課長　須 藤 清 彬（平成６年４月２４日退任）
〃　松沢征太郎（平成６年４月２５日着任）
文 化 係 長　岡 田 洋 一
係　　員　中沢徳士・尾見智志・塩崎幸夫・久保田敦子・清水彰

7　調査に参加・協力していただいた方々（順不同・敬称略）
竹内和好・池田市郎・甲田五夫・関茂樹・市村みつ子・大井敬子・唐沢裕子・田中弥重子・小野沢恵美子・樋口真知子・荒井かぎ子

# 目　　次

1　序説

2　調査の結果　(1)　信濃国分寺跡　(4)　染屋台条里水田遺跡
(2)　天神堂遺跡　(5)　塩田城跡
(3)　下窪遺跡　(6)　藤之木遺跡

# 第一章　序　説

上田市は、長野県の東部、通称「東信地区」に所在する。市域のほぼ中央を東西に千曲川が流れ、北に太郎山塊、南に独鈷山塊、東に烏帽子山塊、西に飯縄山塊と四方を山々に囲まれた地域である。歴史的にみると、古代には創置の信濃国府・信濃国分寺が、中世には信濃守護所が、近世には上田城と、常に長野県史の表舞台に立ち続けたところである。

一方、地下に残る埋蔵文化財についても、昭和46～48年にかけての分布調査により、４３０件余りの遺跡が登録された。ところが、この調査は、遺物の表面採集や聞き込みによるものであったため、遺跡の範囲や保存状況が正確さに欠け、発掘調査着手後に調査の計画変更を余儀なくされる事態が数多く生じ、文化財保護部局のみならず、開発主体者にも多大な迷惑をかけるケースがしばしばであった。そうしたおり、1998年長野冬季オリンピックの決定により、上信越自動車道・北陸新幹線の工期が急激に圧縮され、これに伴う各種の官・民の開発計画が目白押しの状態となった。そこで、上田市教育委員会ではこれらの開発に伴う遺跡の保護措置を講ずるため、平成６年度国庫補助事業として、「市内遺跡発掘調査」を事業費1,878千円をもって実施した。

本年度は、アパート等の民間開発に伴う「信濃国分寺跡」・「下窪遺跡」、住宅団地造成等の公共開発事業に伴う「天神堂遺跡」・「染屋台条里水田遺跡」・「藤之木遺跡」、史跡指定地周辺の開発事業により危機的状況にある「塩田城跡」の計６遺跡について調査を実施した。

開発の情報は、公営のものについては上田市の担当部局から、民間のものについては上田市開発審査の合議により得た。そして、社会教育課職員が現地踏査を行い、調査の要があると判断されたものについて試掘調査を行った。

調査は、開発計画区域内にバックホー及び人力によりトレンチを入れ、その土層や遺構検出面・出土遺物の有無を確認し、これと地形のあり方を考えあわせ、開発区域内における遺跡の範囲を示すこととした。なお、事業地が未買収の場合、事前の現地踏査により開発計画図にトレンチを入れる箇所を示し、現所有者の同意を開発主体者（主管課）に得てもらい調査を実施した。

こうして、天神堂遺跡では古墳時代の住居址を検出し現地保存された。染屋台条里水田遺跡では平安時代の遺構が、藤之木遺跡では弥生～平安時代にかけての集落址が検出され、平成７年度以降に本調査が必要な事業として、現在協議中である。塩田城跡では、これまで未解明の地域で２基の井戸跡を確認できたことは、城跡の保護をすすめるうえで大変意義深い。

遺跡の保護措置を講ずる保護協議をすすめるうえで、開発側・保護側双方にとって最大の関心は、該当遺跡の範囲であり、この基礎資料となるものが今回の調査結果である。限られた予算と人員・期間の中での調査であるため、やや不十分な面があるのは否めない。しかし、この調査がその後の遺跡の行く末を決めてしまう面が大きいため、調査の精度のさらなる向上が必要となってきている。

## （1） 信濃国分寺跡

1　調　査　地　　上田市大字国分字堀東沖１５１５－２

2　原　　因　　平成６年５月２３日付奥山満春・隆幸氏の現状変更申請（住宅建替）

3　実　施　日　　平成６年９月１６日

4　面　　積　　幅１ｍのトレンチ２本（長さは任意）

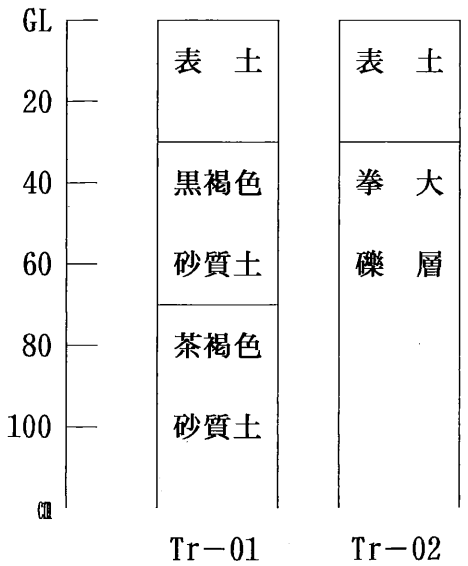
5　調査担当者　　清水　彰

**遺跡の位置と経過**

信濃国分寺跡は、上田市の中心部から東へ約1.5km程よった大字国分に所在する。昭和５年11月19日に国の史跡指定を受け、昭和38年から46年にかけて実施した発掘調査により、僧寺・尼寺の全貌がほぼ解明され、昭和43年３月19日に追加指定を受け、129,339.7㎡に及ぶ広大な史跡指定地になっている。

平成６年５月23日、上田市大字国分１５１５－２番地の奥山満春・隆幸氏から、両氏居住の住宅を建て替えたいとの申請があった。同地は、史跡信濃国分寺跡指定地内にあるため、文化財保護法第80条第１項の規定により、『史跡名勝天然記念物の現状変更等の許可申請書』を提出してもらった。

平成６年６月24日付委保第４の５９９号により、文化庁から、「工事の着手は発掘調査の終了後とする。」という指示を受け、発掘調査を実施した。

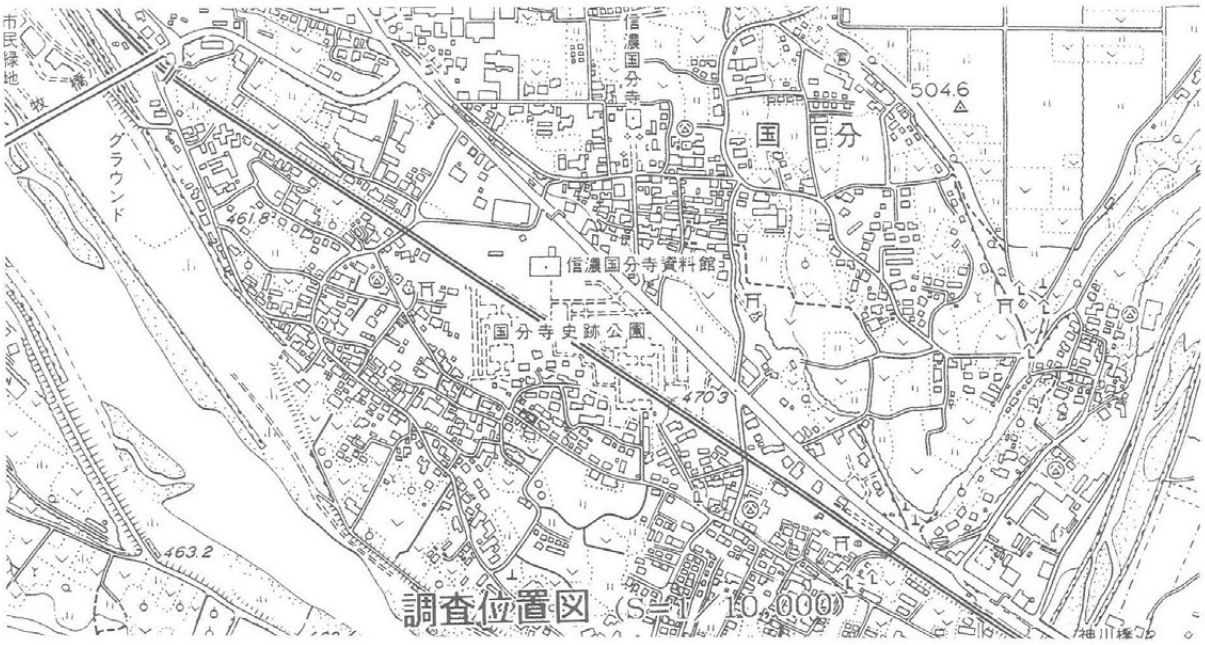



**標 準 土 層 柱 状 図**

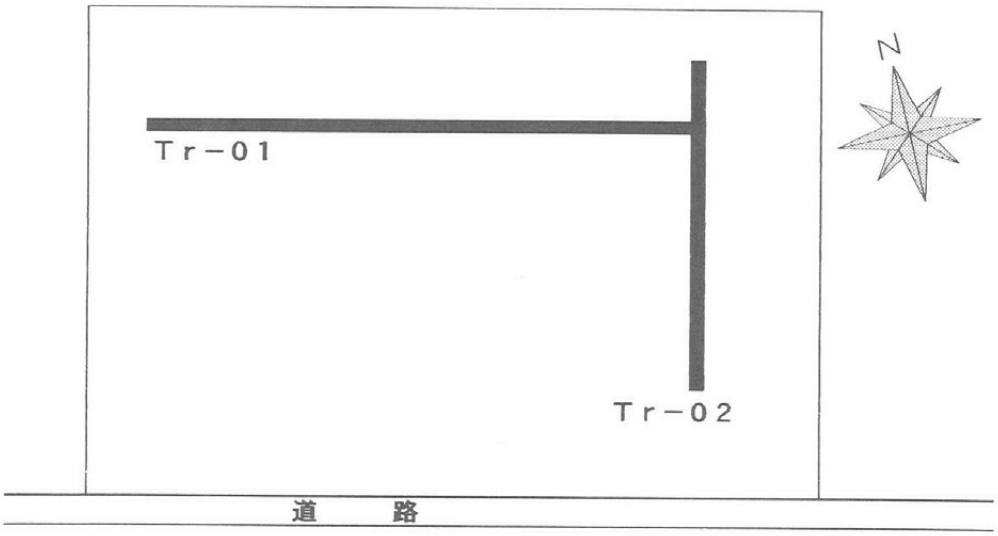
**調査の結果**

調査は、申請地内に２本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。その結果、遺構・遺物はまったく検出されなかった。

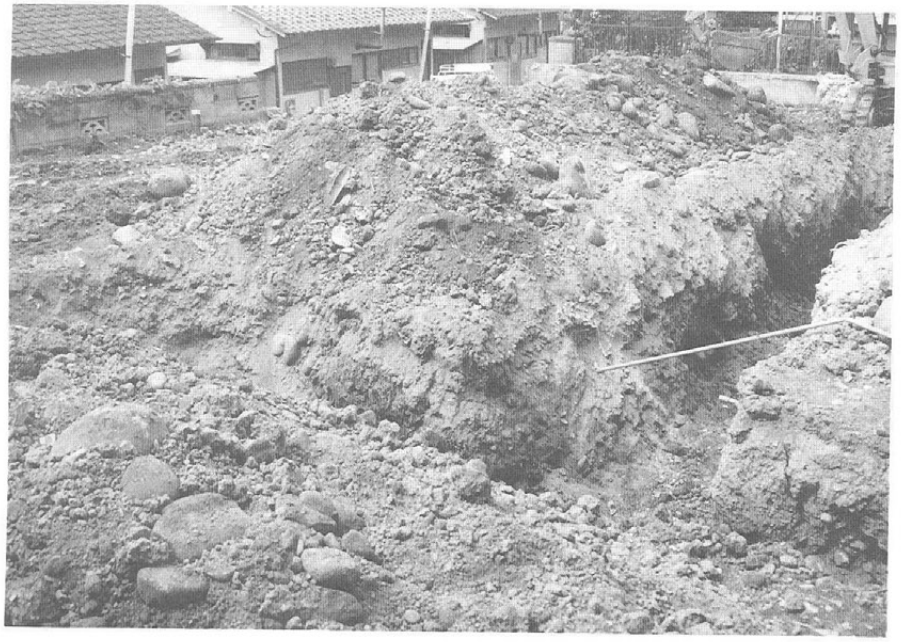
これは同地が、千曲川の第３段丘面と第４段丘面の境で、切り立った崖が形成されていたためと考えられ、遺構は存在しなかったものと考えられる。




調査位置図（S=1/10,000）




トレンチ配置図



調　査　状　況

## （2） 天神堂遺跡

1　調　査　地　　上田市大字中之条字天神堂

2　原　　因　　都市計画公園　千曲町公園新設事業

3　実　施　日　　平成６年１０月１２日

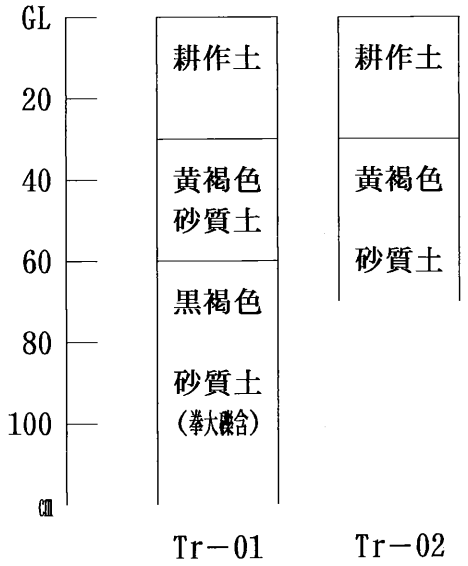
4　面　　積　　幅１ｍのトレンチ２本（長さは任意）

5　調査担当者　　清水　彰

**遺跡の位置と経過**

天神堂遺跡は、上田市街地の南部、大字中之条地区に所在する。県の遺跡地図には１遺跡として括られているが、『上田市の原始・古代文化』（1977　上田市教育委員会）では、「天神堂遺跡」・「緑川遺跡」の２遺跡に分けて把握されている。同書によれば、「上田千曲高校グラウンドの西隅から北西へ、およそ１５０ｍの緑川遺跡と、西方の天神堂遺跡が、東西およそ２００ｍ、南北およそ１００ｍにわたって分布し、ともに弥生後期の箱清水式土器などを出土する。これらは一体の遺跡と考えられるが、急速に宅地化が進み、破壊が憂慮される。」とある。

今回、上田市教育委員会では、千曲町公園新設事業に先立ち、遺跡の存否を確認するため、試掘調査を実施した。



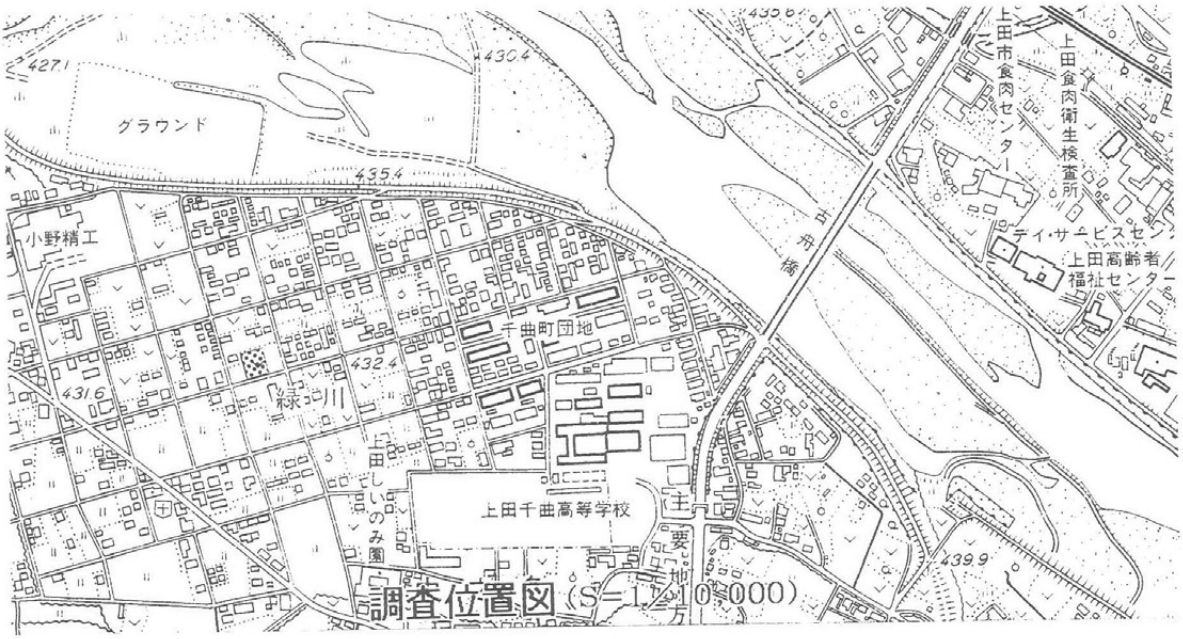

**標 準 土 層 柱 状 図**

**調査の結果**

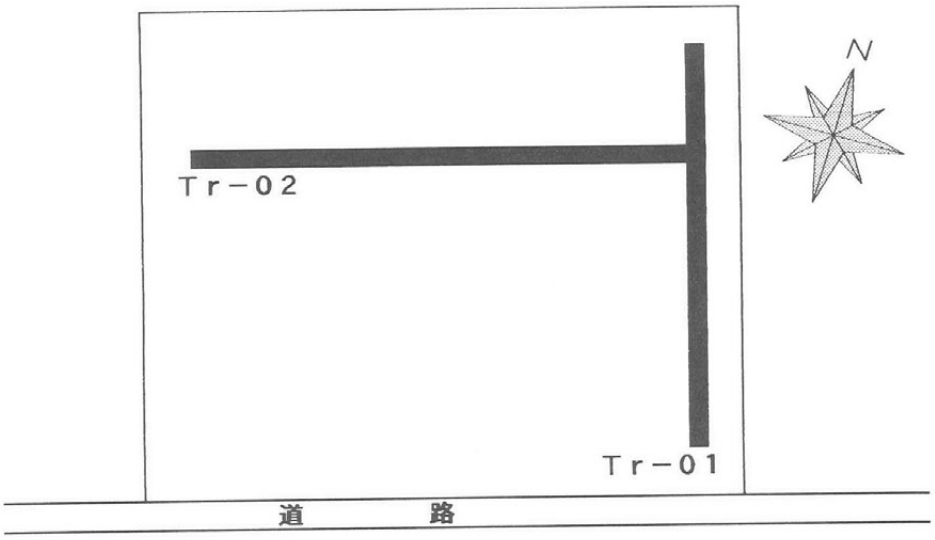
調査は、事業地内に２本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。その結果、Tr-01では、GL－30cmのレベルで包含層を確認し、弥生時代後期の土器を出土した。Tr-02でも、GL－30cmのレベルで古墳時代前期の住居址と思われる遺構を確認した。

本遺跡は、千曲川の第２段丘上に位置し、水利の便がよく、遺跡の立地条件を満たしていた。

なお、本遺跡は、千曲町公園新設にともない、盛土し、現地保存された。




調査位置図（S＝1/10,000）




トレンチ配置図

調　査　状　況

## （3） 下窪遺跡

1　調　査　地　　上田市大字本郷字下窪

2　原　　因　　太田アパート新築工事

3　実　施　日　　平成６年１０月１８日

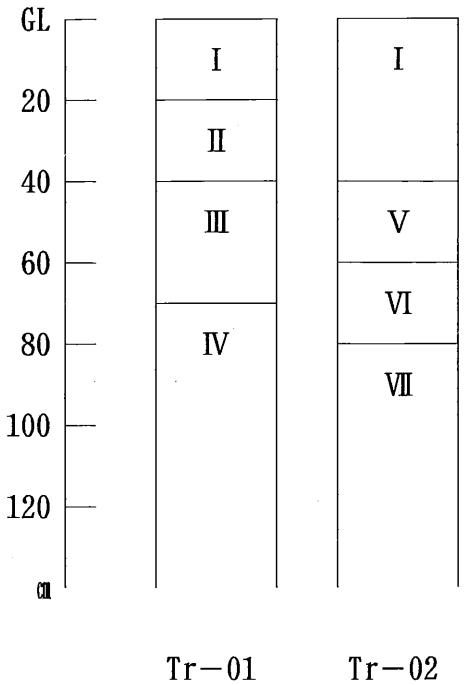
4　面　　積　　幅１ｍのトレンチ２本（長さは任意）

5　調査担当者　　清水　彰

**遺跡の位置と経過**

下窪遺跡は、上田市街地の南部、大字本郷に所在する。『上田市の原始・古代文化』（1977　上田市教育委員会）によれば、「下本郷集落の北端から、南北約300m、道路の西方約200mの範囲の北方に下窪遺跡がある。後期の土師・須恵器を出土するが、ほ場整備で全壊状態である。」とある。

平成６年９月14日、事業主太田幸治・陽子両氏より、アパートを新築したいとの開発事業届が提出された。本事業地は、遺跡の存在する可能性があるので、同年10月14日の現地調査の際に、事業主にその旨を申し入れ、試掘調査の了承を得て、同年10月18日、試掘調査を実施した。




**標 準 土 層 柱 状 図**

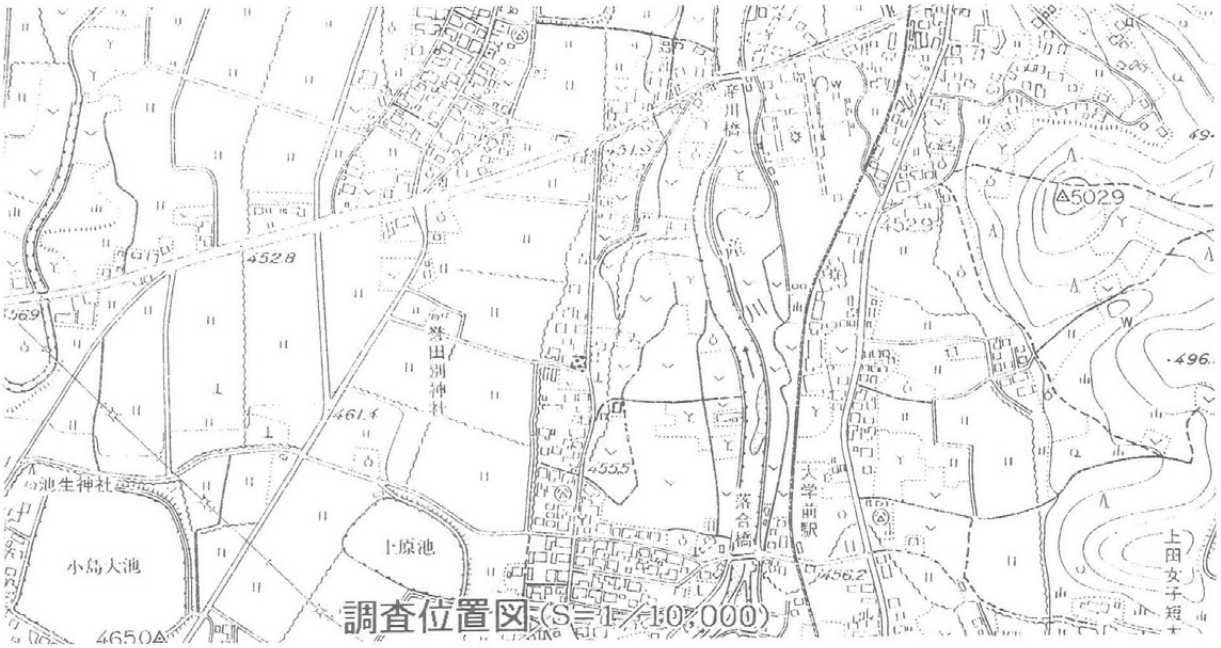
**調査の結果**

調査は、事業地内に２本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。

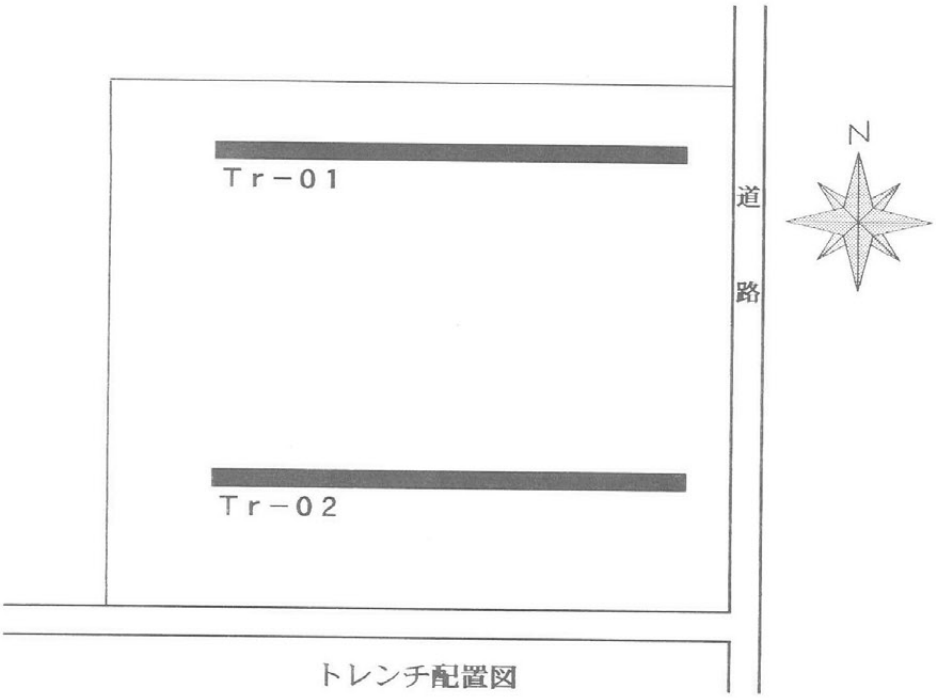
その結果、いずれのトレンチでも、遺構・遺物はまったく検出されなかったので、遺跡は、本事業地に広がっていないことが確認された。

**土層凡例**

Ⅰ　表　　土
Ⅱ　明黄色粘土
Ⅲ　黄褐色粘土
Ⅳ　暗黄色粘土
Ⅴ　青灰色粘土
Ⅵ　黒褐色粘土
Ⅶ　暗赤褐色砂質土




調査位置図(S=1/10,000)




トレンチ配置図

調 査 状 況

## （4） 染屋台条里水田遺跡

1　調　査　地　　上田市大字国分字上沖

2　原　　因　　上田市立第一中学校建設

3　実　施　日　　平成６年１１月７・８・１０・１１日

4　面　　積　　幅１ｍのトレンチ１５本（長さは任意）

5　調査担当者　　清水　彰

**遺跡の位置と経過**

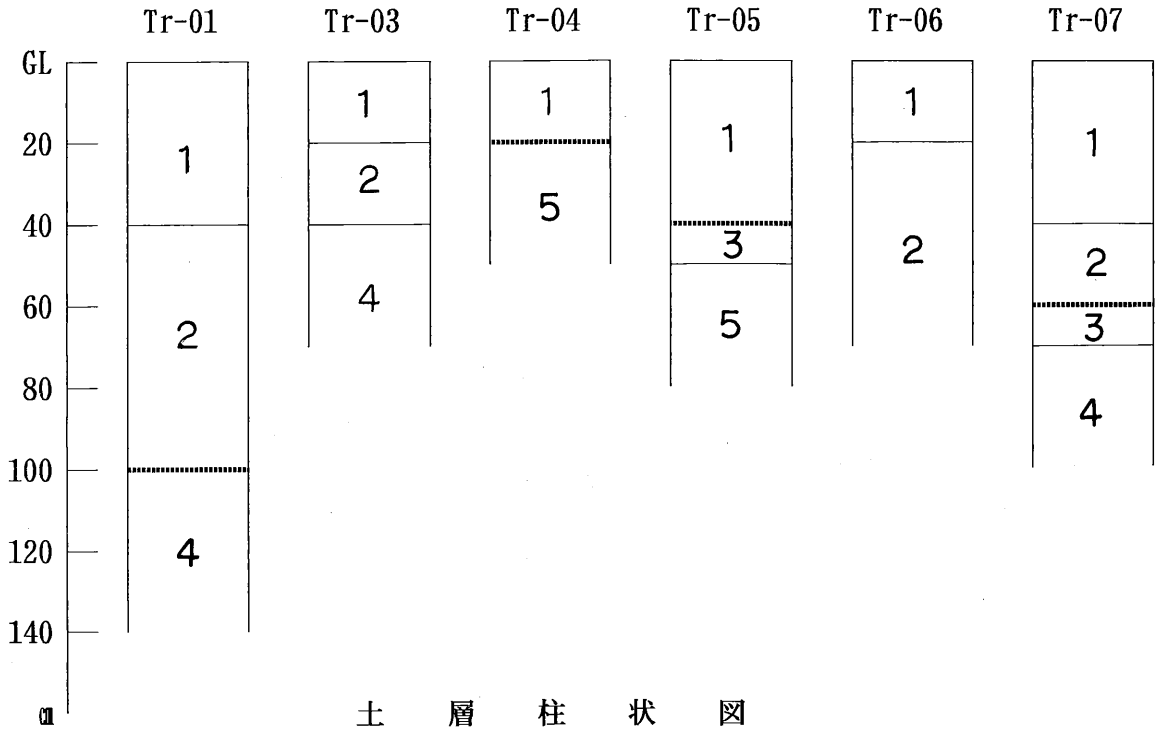
染屋台条里水田遺跡は、上田市の北東部、千曲川と神川によって形成された大段丘上に位置する。遺跡分布図では、染屋台条里水田遺跡として段丘全体が括られているが、水田址は、現在のところ確認されていない。しかし、同段丘上の５次にわたる『創置の信濃国府跡』確認調査において、段丘面の各所に小規模な建物址などが確認されている。

今回、上田市立第一中学校建設に伴い、試掘調査を実施した。

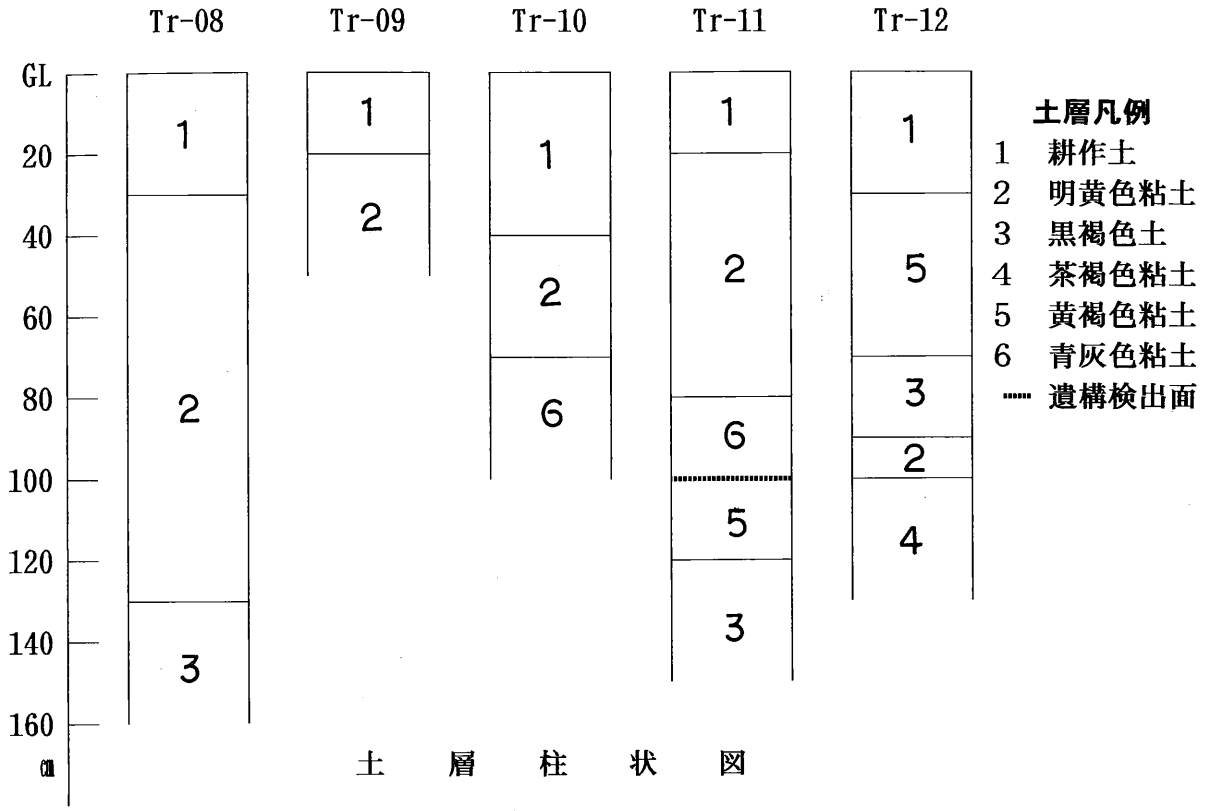
**調査の結果**

調査は、事業地内に15本のトレンチを設定し、小型バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。

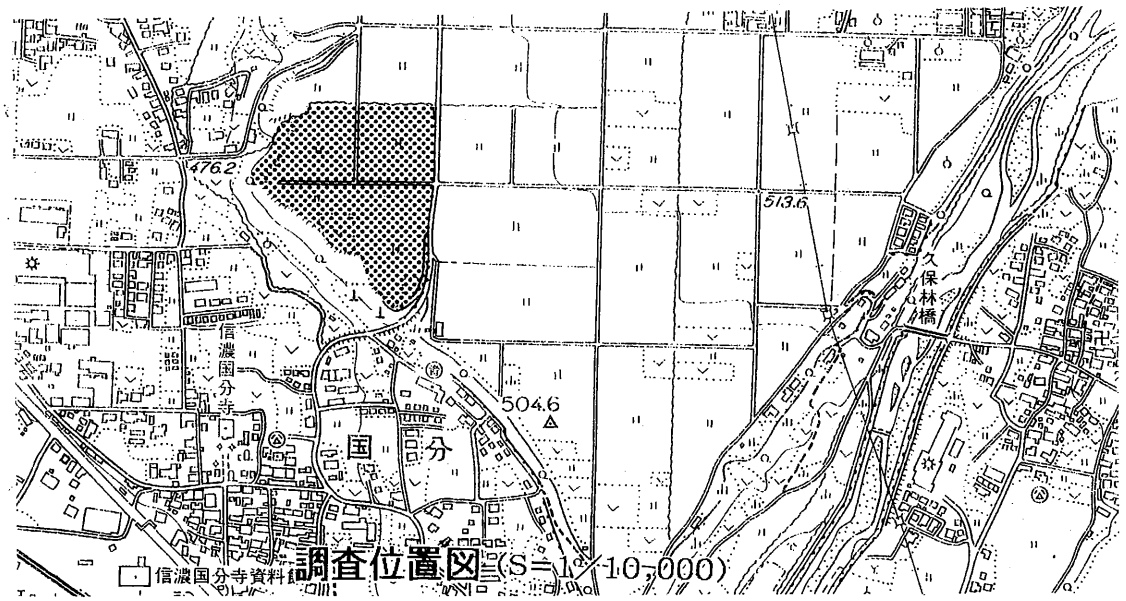
その結果、遺構・遺物が確認できたトレンチは、Tr-01･04･05･07･11であった。Tr-01からは、溝状遺構を確認し、その中から土師器片が出土した。Tr-04･05からは、住居址らしき遺構と土坑を確認しその内部から須恵器が出土した。Tr-07･11では、黒褐色の遺物包含層を確認した。



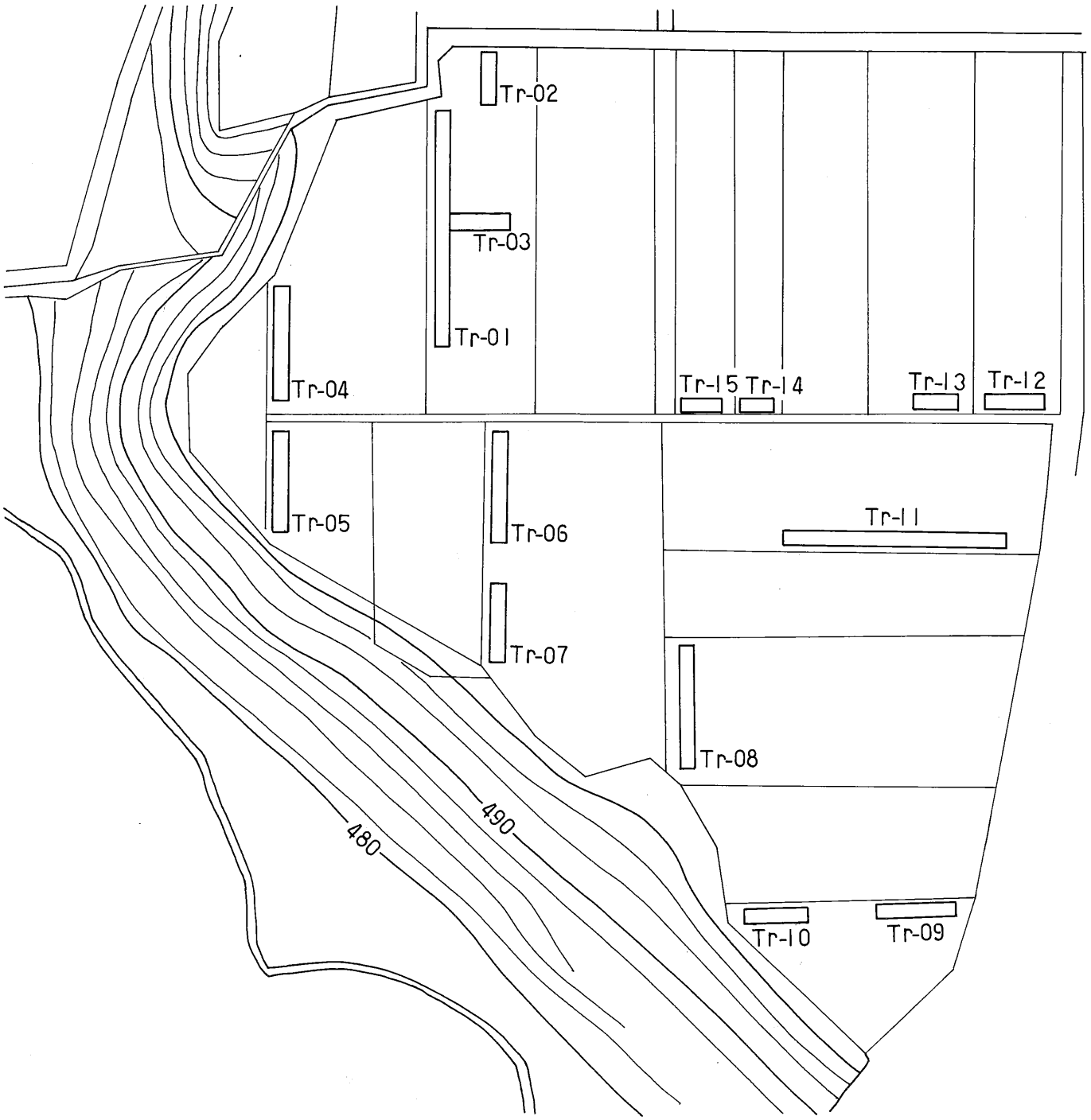

土　層　柱　状　図



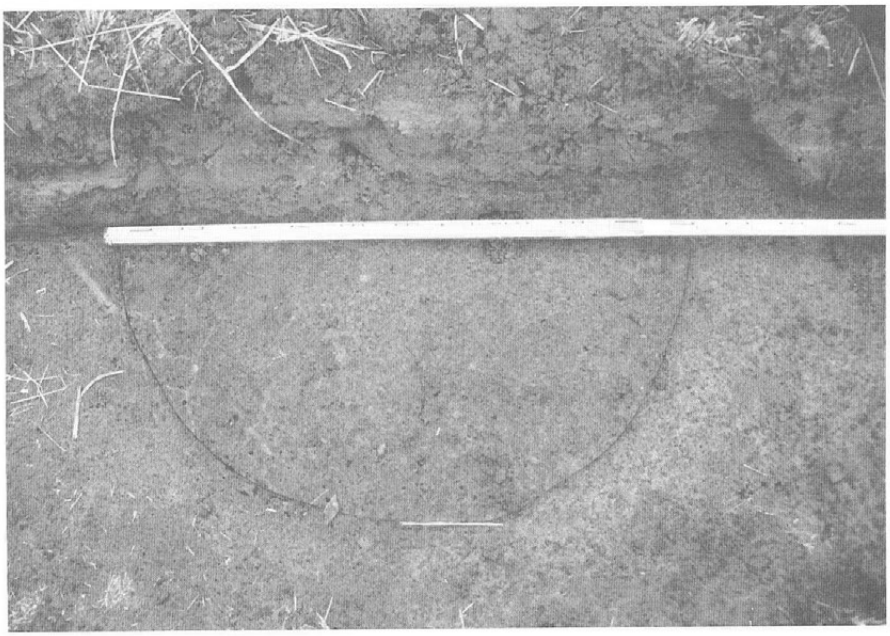

土　層　柱　状　図



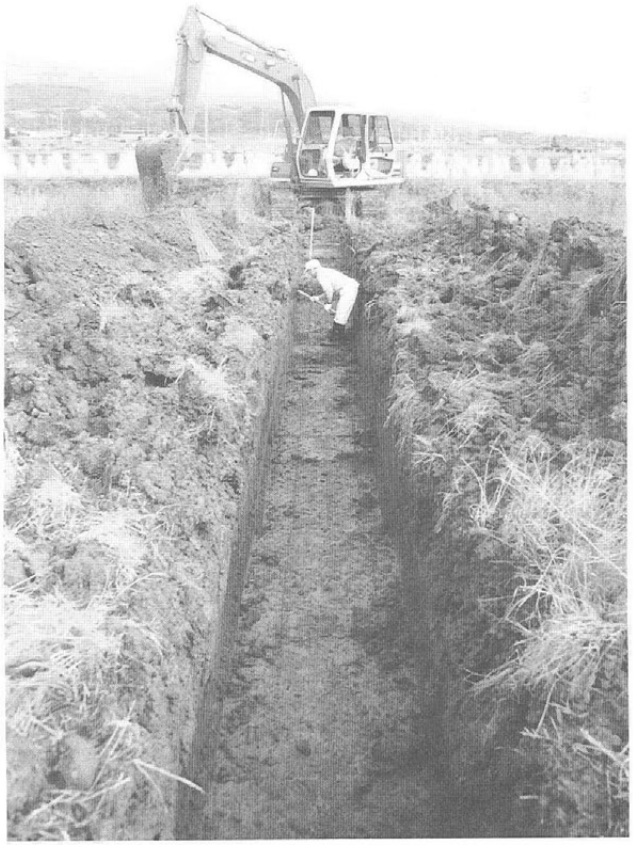

調査位置図(S=1/10,000)


Tr-02
Tr-03
Tr-01
Tr-04
Tr-15
Tr-14
Tr-13
Tr-12
Tr-05
Tr-06
Tr-11
Tr-07
Tr-08
490
480
Tr-10
Tr-09

**トレンチ配置図**



Tr－05



Tr－03

Tr－11

## （5）　塩田城跡

1　調　査　地　　上田市大字前山字上町

2　原　　因　　塩田城跡保護のための調査

3　実　施　日　　平成６年１２月７日から平成７年１月６日

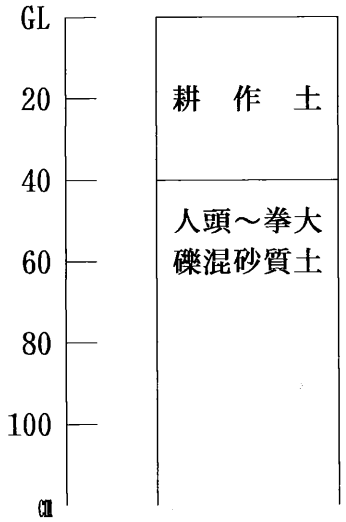
4　面　　積　　幅１ｍのトレンチ４本（長さは任意）

5　調査担当者　　清水　彰

**遺跡の位置と経過**

塩田城跡は、上田市の南部、塩田地区の大字前山に所在する長野県の指定史跡であり、塩田北条氏によって開かれたとする説が有力である。現段階では、村上氏がその基礎形態を形成し、武田氏によって甲州流の山城に改変されたところまでは判明している。指定地区は、その山城部分だけであるが、城下町まで考えると、現在の東前山地区が、そっくり範囲に入るものと考えられ、遺跡分布図でも、塩田城跡は、このように図示されている。

近年、史跡指定地周辺において、温泉掘削、農業基盤整備事業及び宅地開発が活発となり、史跡の保護が憂慮される事態となっている。今回、上田市教育委員会では、昨年に引き続き史跡保護を大前提とした、塩田城跡の基礎資料収集のため、試掘調査を実施した。



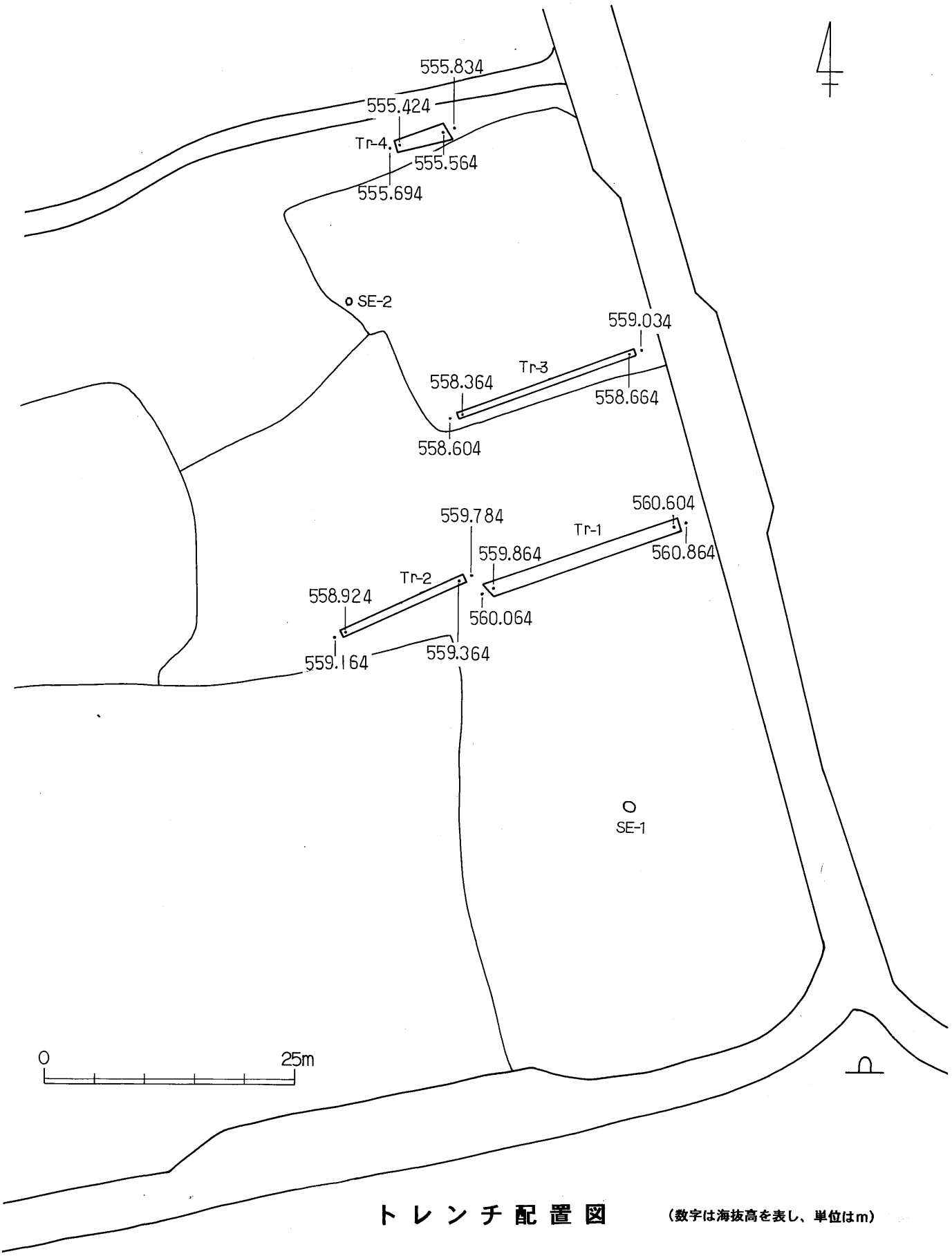

標準土層柱状図

**調査の結果**

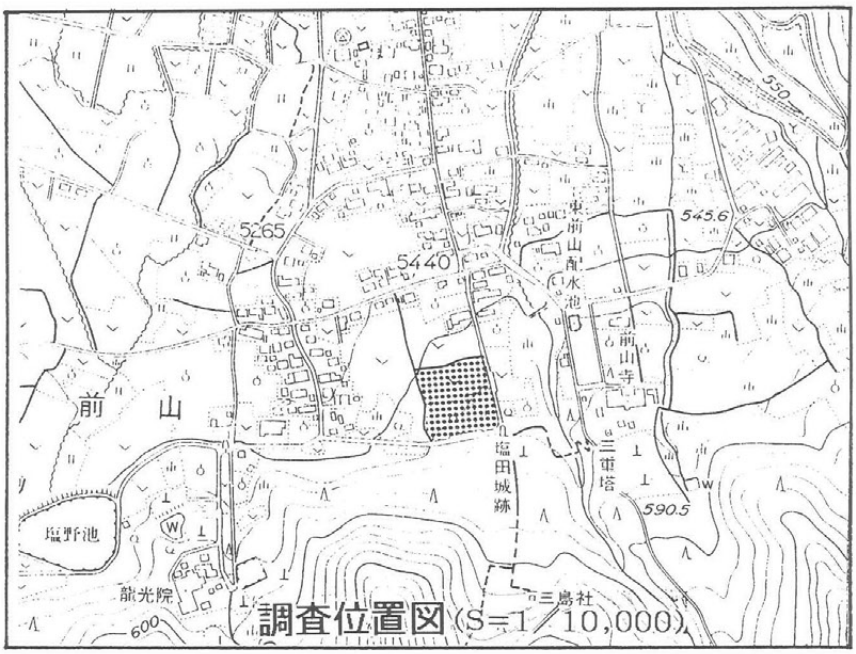
調査は、塩田城跡の空堀跡以北の畑地にトレンチを４本設定し、人力により掘削し、土層断面を精査、また、地元の伝承による井戸跡の確認を行った。

その結果、いずれのトレンチからも遺構と断定できるものは、検出されなかった。井戸跡については、昨年検出されたものの位置の確認の他、新たに１基の井戸跡を確認した。

遺物については、土師質土器・須恵質土器・景徳元宝（北宋・１０４４）が出土した。土器については、いずれも、破片で時代を特定することはできない。

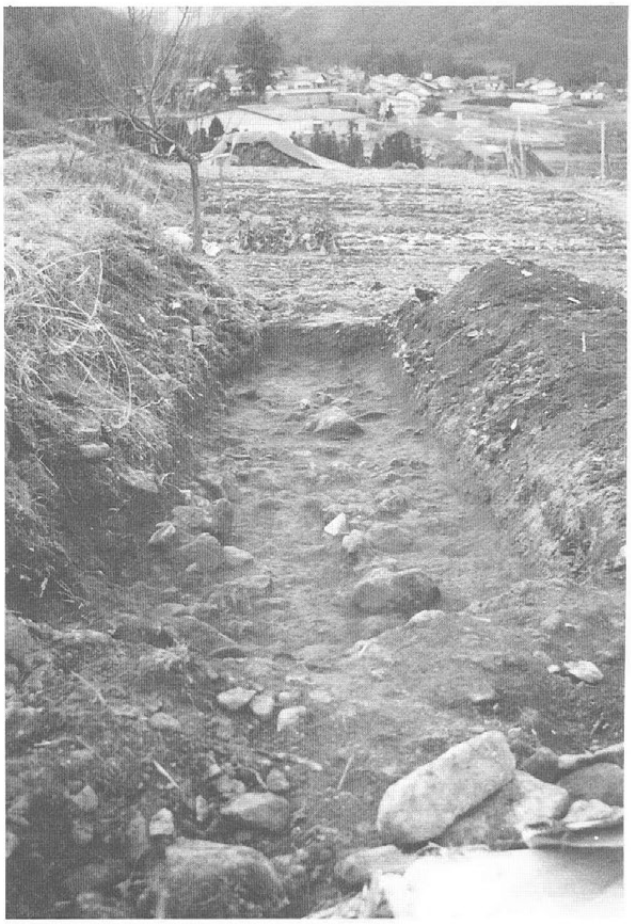



**トレンチ配置図**　（数字は海抜高を表し、単位はm）




調査位置図（S＝1／10,000）

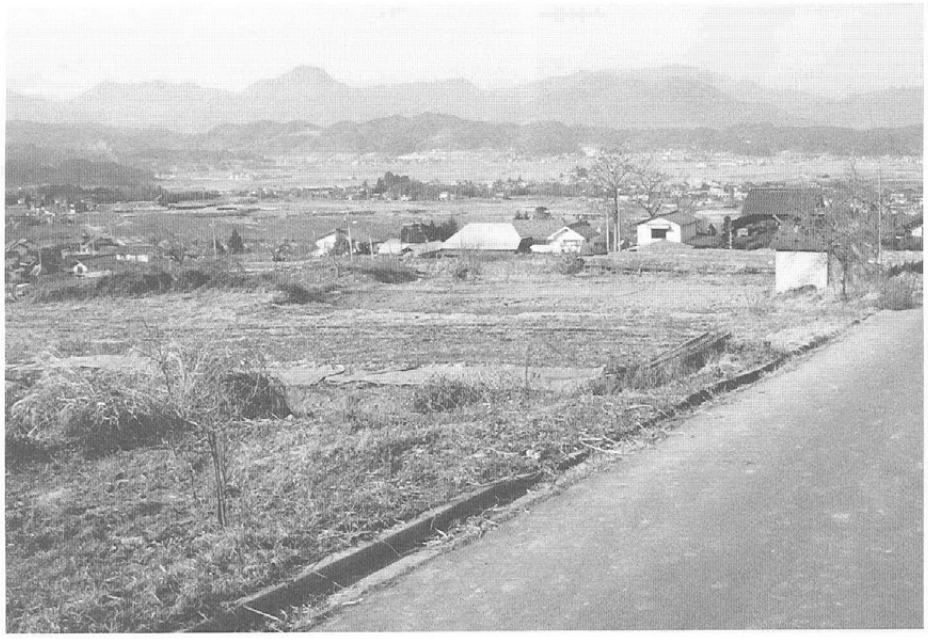
Ｔｒ－１



Ｔｒ－４

SE－1

調査状況



調査地遠景

## （6） 藤之木遺跡

1　調　査　地　　上田市大字浦野字湯道・上田市大字越戸字大田

2　原　　因　　浦里住宅団地（仮称）造成事業

3　実　施　日　　平成６年１２月２１～２３日・平成７年２月３日

4　面　　積　　幅１ｍのトレンチ２０本（長さは任意）

5　調査担当者　　中沢　徳士

**遺跡の位置と経過**

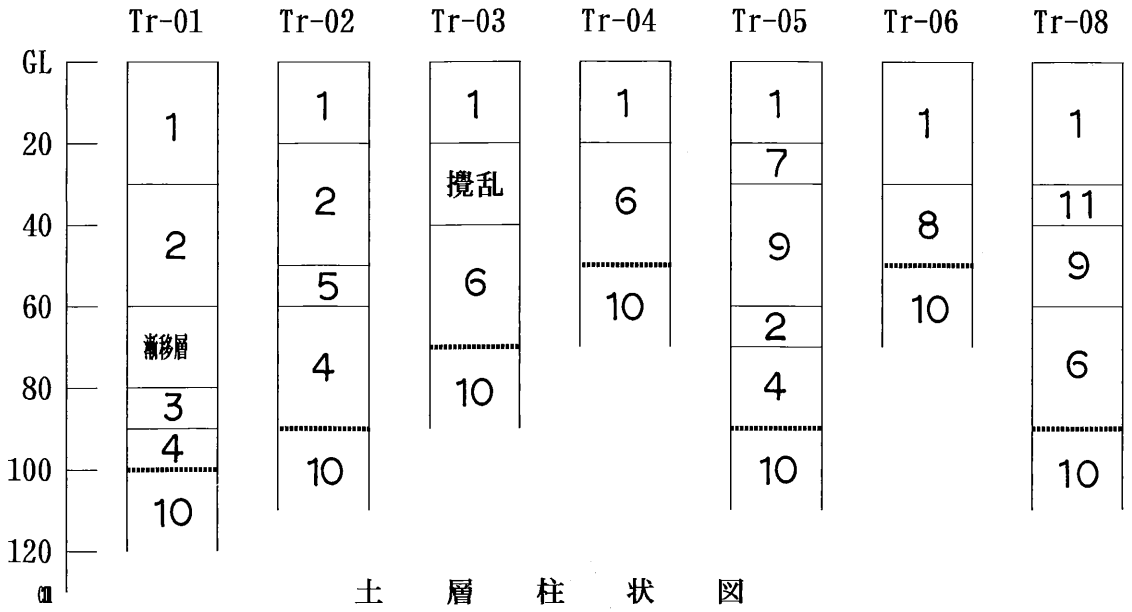
藤之木遺跡は、上田市の南西部、大字浦野に所在する。『上田市の原始・古代文化』（1977　上田市教育委員会）によれば、「上田市役所川西支所の西南方、およそ150m付近の畑地から、耕作中に弥生後期の箱清水式、前期初頭の土師器を出土している。分布範囲は明らかでない。」とある。

今回、浦里住宅団地（仮称）造成に伴い、試掘調査を実施した。

**調査の結果**

調査は、事業地内に20本のトレンチを設定し、バックホーにより掘削し、土層断面を精査した。

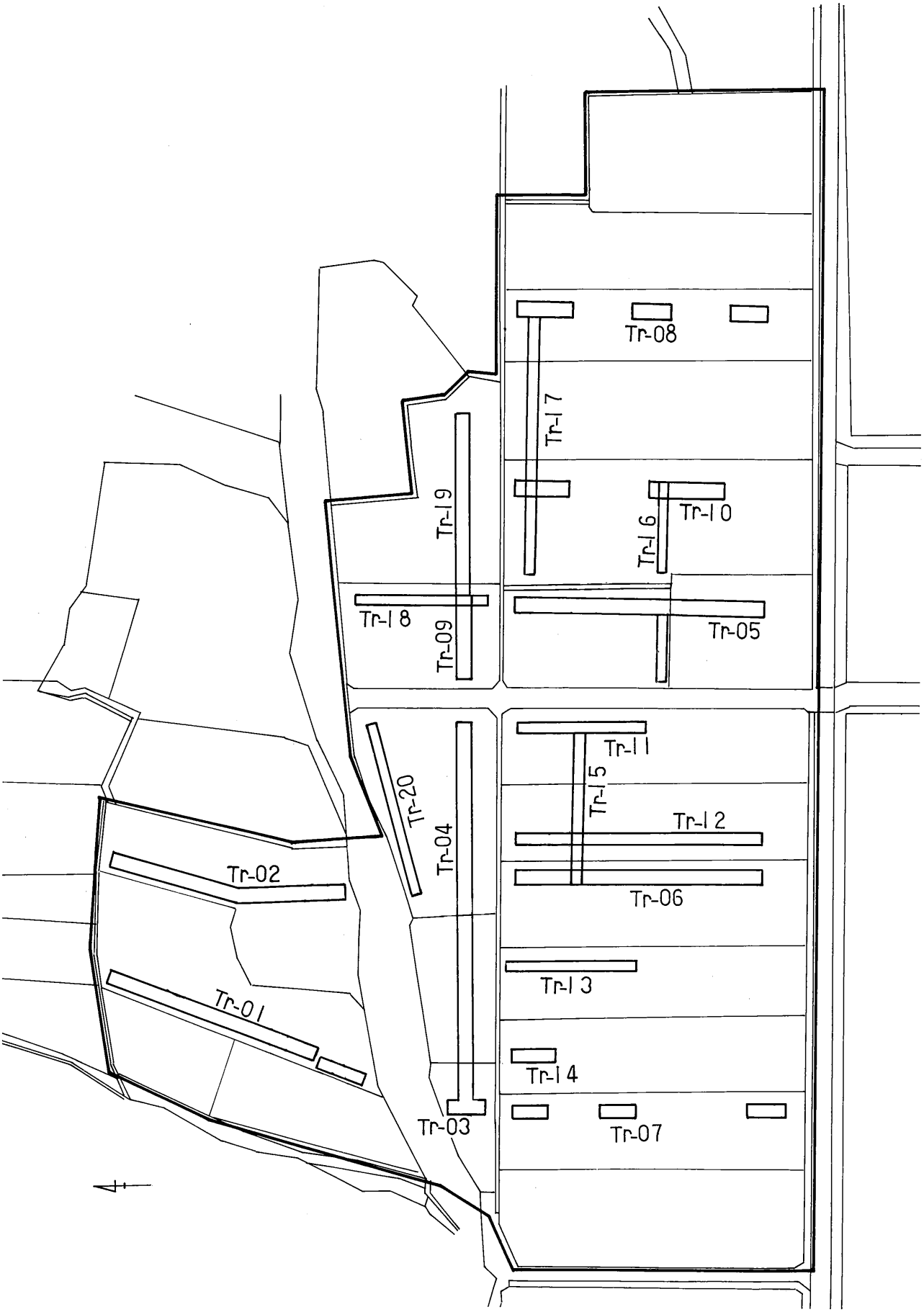
その結果、Tr-01･02･03･04･05･12･16･17で、住居址を８軒、溝址を３条確認した。遺物は、各トレンチにわたり、弥生後期の箱清水式土器・土師器・須恵器などが出土した。このことにより、本遺跡は弥生時代後半～平安時代にわたる複合遺跡であることが判明した。



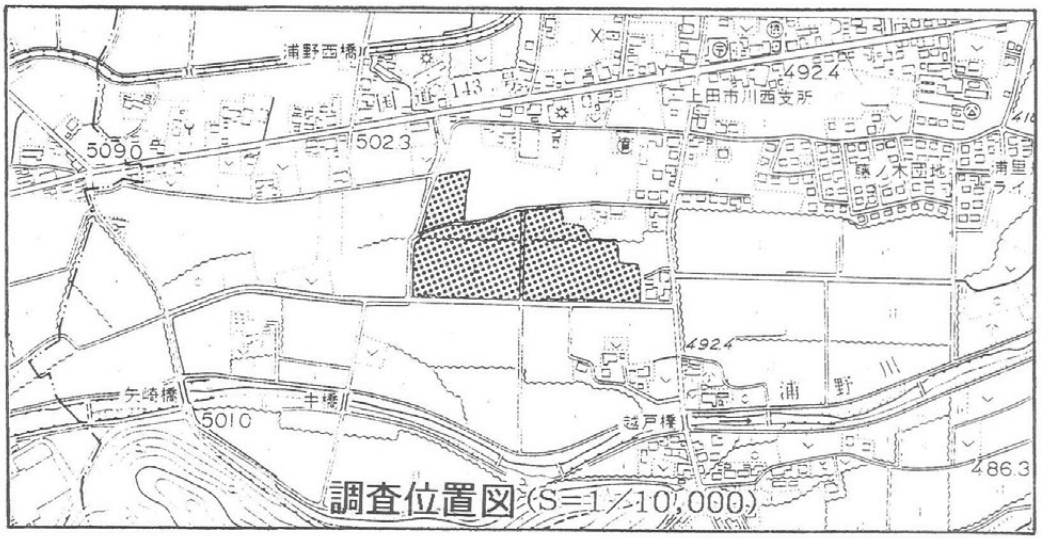

土　層　柱　状　図

**土層凡例**

| | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|
| 1 | 耕作土 | 5 | 灰褐色強粘質土 | 9 | 燈色土灰色土混強粘質土 |
| 2 | 燈灰色強粘質土 | 6 | 黒褐色弱粘質土 | 10 | 黄燈色弱粘質土 |
| 3 | 燈灰褐色強粘質土 | 7 | 灰色強粘質土 | 11 | 黄灰色粘質土 |
| 4 | 燈灰色粘質土 | 8 | 灰褐色弱粘質土 | …… | 遺構検出面 |

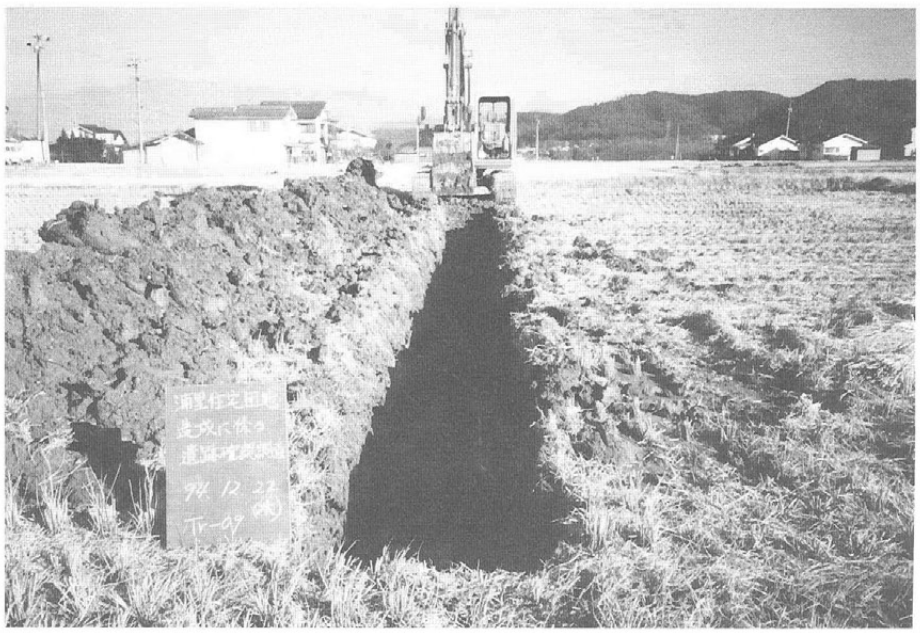

Tr-08
Tr-17
Tr-19
Tr-16
Tr-10
Tr-18
Tr-09
Tr-05
Tr-11
Tr-15
Tr-20
Tr-04
Tr-12
Tr-02
Tr-06
Tr-13
Tr-01
Tr-14
Tr-03
Tr-07

トレンチ配置図




調査位置図(S=1/10,000)

Tr−02




Tr−09

Tr－11

Tr－15

調査地遠景

上田市文化財調査報告書第55集

市内遺跡 Ⅳ

平成６年度市内遺跡発掘調査報告書

発　行　　平成７年３月２４日
　　上田市教育委員会
印　刷　　有限会社竹内印刷所